

松本市の景気動向

— 中小企業景気動向基本調査 —

【令和3年11月】

■調査概要（データ対象期間：令和3年11月1日～11月30日）

○調査期間：令和3年11月30日～令和3年12月17日

○調査対象：市内中小企業200企業に対して郵送等によるアンケート調査

○回収状況：建設業19企業、製造業19企業、卸売業11企業、小売業23企業

飲食業19企業、サービス業42企業（運輸、不動産仲介業を含む）

<合計133企業>

○調査項目：11月の売上・仕入・営業利益・受注量・受注単価・販売(客)数・販売(客)単価

状況向こう3ヵ月の業況見通し（DI値を集計）

(注)DI(Diffusion Index)値は、売上などの各項目についての判断の状況を示す。ゼロを基準と

して、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下

向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示す

ものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

※DI=(増加・好転などの回答割合)-(減少・悪化などの回答割合)

松本市・松本商工会議所

概況

業況DI、水準DI共にマイナス幅の縮小

1. 業況判断

○全産業合計の業況DI（前年同月比ベース）は、前月（▲11.4）よりマイナス幅が9.9ポイント縮小し、▲1.5となった。業種別では、卸売業はプラス幅が拡大した。飲食業はマイナスからプラスに転じた。製造業、小売業は0のまま横ばいとなり、サービス業、建設業はマイナス幅が縮小した。

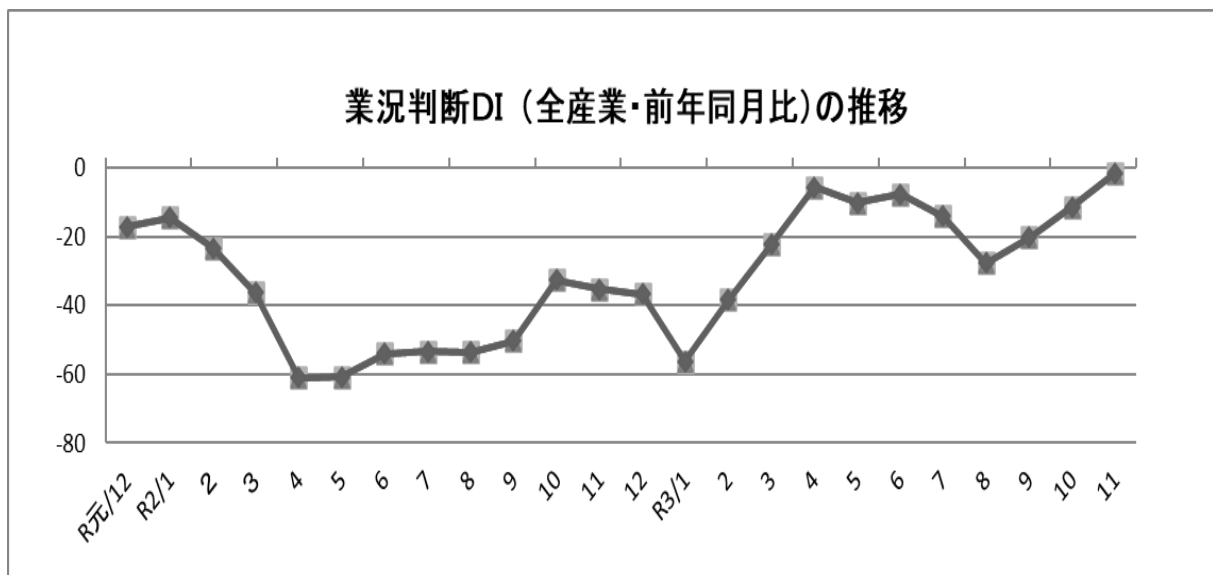
○全産業合計の水準DIは、前月（▲17.8）よりマイナス幅が6.5ポイント縮小し、▲11.3となった。業種別では、製造業、建設業ではマイナスから0になり、卸売業は0からマイナスになった。サービス業、飲食業ではマイナス幅が縮小し、小売業はマイナス幅が拡大した。

業況判断DI

	業況[前年同月比]				今月の水準			
	好転%	不変%	悪化%	DI	良い%	普通%	悪い%	DI
合計	21.1 (17.9)	56.3 (52.8)	22.6 (29.3)	▲ 1.5 (▲ 11.4) ↗	18.8 (18.6)	51.1 (45.0)	30.1 (36.4)	▲ 11.3 (▲ 17.8) ↗
建設業	5.3 (4.5)	78.9 (72.8)	15.8 (22.7)	▲ 10.5 (▲ 18.2) ↗	10.5 (4.5)	79.0 (77.3)	10.5 (18.2)	0.0 (▲ 13.7) ↗
製造業	26.3 (30.0)	47.4 (40.0)	26.3 (30.0)	0.0 (0.0) →	26.3 (20.0)	47.4 (40.0)	26.3 (40.0)	0.0 (▲ 20.0) ↗
卸売業	36.4 (30.8)	36.3 (46.1)	27.3 (23.1)	9.1 (7.7) ↗	18.2 (30.8)	45.4 (38.4)	36.4 (30.8)	▲ 18.2 (0.0) ↘
小売業	26.1 (29.2)	47.8 (41.6)	26.1 (29.2)	0.0 (0.0) →	26.1 (33.3)	34.8 (29.2)	39.1 (37.5)	▲ 13.0 (▲ 4.2) ↘
飲食業	42.1 (11.8)	31.6 (52.9)	26.3 (35.3)	15.8 (▲ 23.5) ↗	26.3 (17.6)	31.6 (41.2)	42.1 (41.2)	▲ 15.8 (▲ 23.6) ↗
サービス業	9.5 (11.4)	71.5 (56.8)	19.0 (31.8)	▲ 9.5 (▲ 20.4) ↗	11.9 (13.6)	59.5 (43.2)	28.6 (43.2)	▲ 16.7 (▲ 29.6) ↗

()内は前月データ

※「業況[前年同月比]」・・・前年同月の業況との比較による回答の集計
 「今月の水準」・・・事業主の方の主観による回答の集計



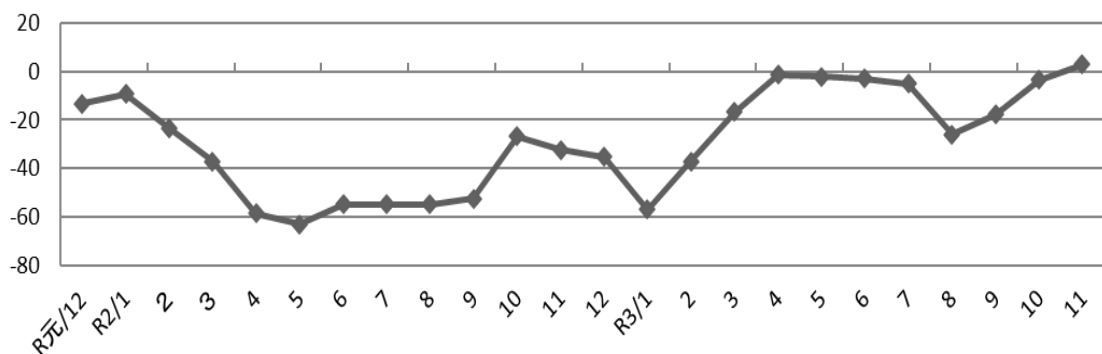
2. 売上高D I（前年同月比）

○全産業合計の売上高D Iは、前月（▲3.5）よりマイナス幅が6.5ポイント縮小して、3.0となった。業種別に見ると、卸売業はプラス幅が拡大し、小売業はプラス幅が縮小した。飲食業、建設業はマイナスからプラスに転じ、製造業はプラスからマイナスに転じた。サービス業はマイナス幅が縮小した。

【対前年同月比売上高業種別DIの推移】

	R2年11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
全体	▲32.4	▲35.4	▲57.0	▲37.0	▲16.8	▲1.4	▲2.2	▲2.9	▲5.1	▲26.1	▲17.9	▲3.5	3.0
建設業	▲22.8	▲13.6	▲47.4	▲20.0	▲30.0	▲30.0	▲33.4	▲18.2	▲26.3	▲25.0	22.2	▲4.5	15.8
製造業	▲38.1	▲43.5	▲68.4	▲36.3	▲27.3	▲8.7	16.7	25.0	35.0	22.7	4.6	10.0	▲5.2
卸売業	▲61.5	▲38.5	▲58.3	▲41.7	23.1	33.4	10.0	7.7	▲10.0	▲25.0	0.0	7.7	9.1
小売業	▲17.4	▲7.4	▲38.5	▲8.4	▲11.1	3.6	▲8.3	▲16.7	▲13.6	▲48.2	▲45.9	20.9	13.0
飲食業	▲68.7	▲87.5	▲94.4	▲81.2	▲57.9	▲18.7	▲31.3	▲10.0	▲25.0	▲82.4	▲61.1	▲17.6	5.3
サービス業	▲20.5	▲39.6	▲51.3	▲43.2	▲2.4	9.7	13.6	0.0	0.0	▲15.0	▲17.5	▲20.5	▲7.1

売上高DI（全産業・前年同月比）の推移



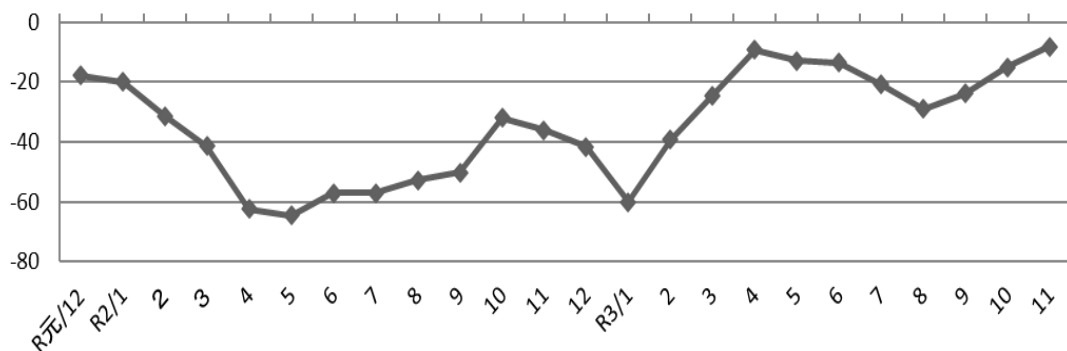
3. 営業利益D I（前年同月比）

○全産業合計の営業利益D Iは、前月（▲15.0）よりマイナス幅が6.7ポイント縮小して、▲8.3となった。業種別に見ると、小売業はプラス幅が拡大した。卸売業はプラスからマイナスに転じた。建設業、サービス業、飲食業、製造業はマイナス幅が縮小した。

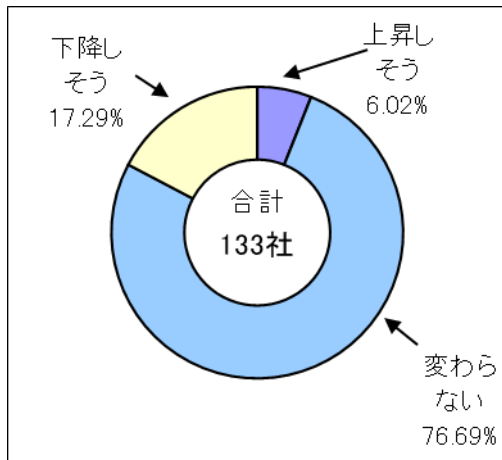
【対前年同月比営業利益業種別DIの推移】

	R2年11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
全体	▲36.0	▲41.7	▲60.0	▲39.2	▲24.5	▲9.3	▲13.0	▲13.5	▲20.8	▲29.0	▲23.9	▲15.0	▲8.3
建設業	▲36.4	▲31.8	▲47.4	▲30.0	▲35.0	▲40.0	▲33.3	▲18.2	▲36.8	▲30.0	5.6	▲22.7	▲5.2
製造業	▲57.1	▲56.5	▲73.6	▲31.8	▲31.9	▲17.4	4.2	▲5.0	5.0	4.5	▲4.5	▲20.0	▲15.7
卸売業	▲46.1	▲23.1	▲58.3	▲33.4	7.7	16.7	0.0	▲7.7	▲20.0	▲16.7	0.0	7.7	▲9.1
小売業	▲17.4	▲18.5	▲46.2	▲25.0	▲22.2	0.0	▲12.5	▲25.0	▲27.3	▲37.0	▲50.0	4.2	4.3
飲食業	▲81.3	▲87.5	▲94.4	▲81.2	▲52.6	▲25.0	▲43.7	▲15.0	▲35.0	▲82.4	▲66.7	▲29.4	▲21.0
サービス業	▲15.9	▲41.8	▲53.7	▲40.9	▲14.3	2.4	▲4.5	▲9.5	▲15.9	▲22.5	▲20.0	▲20.4	▲7.1

営業利益DI（全産業・前年同月比）の推移



◇ 向こう3カ月の見通し ◇

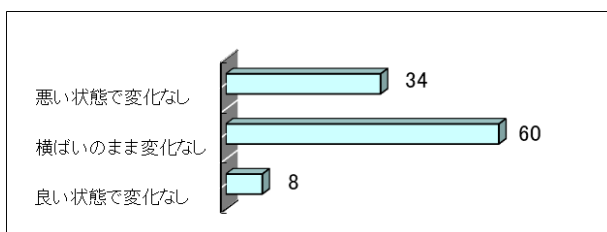


○令和3年12月～令和4年2月の見通しDIは、「上昇しそう」が前月の調査に比べ5.41ポイント減少し6.02%、「下降しそう」が1.58ポイント上昇し17.29%となった。業種別の見通しDIは建設業(▲5.3)、製造業(▲36.8)、卸売業(▲9.1)、小売業(▲8.7)、飲食業(▲5.2)、サービス業(▲7.2)であった。

➡「上昇しそう」では「営業を強化しているため」「災害復旧工事が発注されるため」(建設業)「年末年始に期待しているため」(飲食業)「11月があまりにも悪く、今後に期待しているため」(サービス業)といった声が寄せられた。また「新型コロナウイルス感染症が収束しそうであるため」といった声が多数寄せられた。

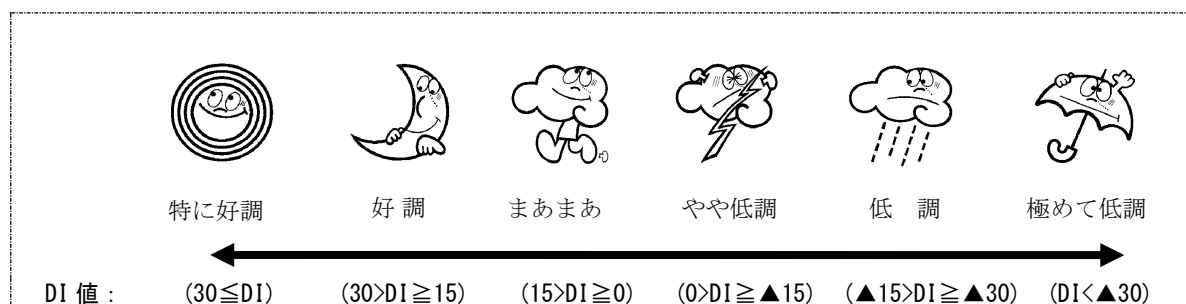
➡「変わらない」では「好転するような状況は考えにくいので横ばいの状態を維持したいため」(建設業)「各月の回収が見込めるため」「昨年同様に悪い状態であるため」(サービス業)といった声が寄せられた。

➡「下降しそう」では「行政のDX推進がただの紙や印刷物削減にしか担当課でとらえられていないため」「1月、2月の販売量が減少見込みのため」「11月が好調だったのでその反動で下がると予想しているため」「季節的な要因があるため」(製造業)「寒さゆえの外出の減少や年末年始出費などのためか例年下降傾向にあるため」(小売業)「11月が良すぎたので、その反動が出ると予想しているため」「企業の忘年会や新年会がストップしているため」(飲食業)「婚礼の撮影予約が入っていないため」「季節的要因及び他校と競合により職業訓練応募者が減少しているため」(サービス業)といった声が寄せられた。また「新型コロナウイルス感染症の影響があるため」「原材料等の値上げの影響があるため」といった声が多数寄せられた。



業種別景況

<DI | 君の景況判断>



1. 建設業



【項目別DIの推移】

	R2年11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	▲ 22.8	▲ 13.6	▲ 47.4	▲ 20.0	▲ 30.0	▲ 30.0	▲ 33.4	▲ 18.2	▲ 26.3	▲ 25.0	22.2	▲ 4.5	15.8
受注量	▲ 18.2	▲ 27.3	▲ 31.5	▲ 25.0	▲ 30.0	▲ 45.0	▲ 28.5	▲ 18.2	▲ 36.8	▲ 20.0	0.0	0.0	▲ 5.3
受注単価	▲ 13.7	▲ 4.5	▲ 15.8	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 20.0	▲ 19.0	▲ 9.1	▲ 15.8	▲ 10.0	▲ 5.6	▲ 9.1	5.3
営業利益	▲ 36.4	▲ 31.8	▲ 47.4	▲ 30.0	▲ 35.0	▲ 40.0	▲ 33.3	▲ 18.2	▲ 36.8	▲ 30.0	5.6	▲ 22.7	▲ 5.2
見通し	▲ 13.7	▲ 4.6	10.5	0.0	▲ 20.0	▲ 5.0	14.2	4.5	0.0	5.0	11.1	▲ 4.5	▲ 5.3

<経営者の目・見方・e t c >

鉄工

・原油価格の高騰だけでなく、諸資材の値上がりや品不足が心配される状況である。コロナ禍の影響があり船や飛行機等の取引が停滞していることも原因の一つとして考えられる。直接の感染や自粛等の事象がなくても、何かしらの影響を受けていると感じる。早く以前の日常に戻ることを期待している。

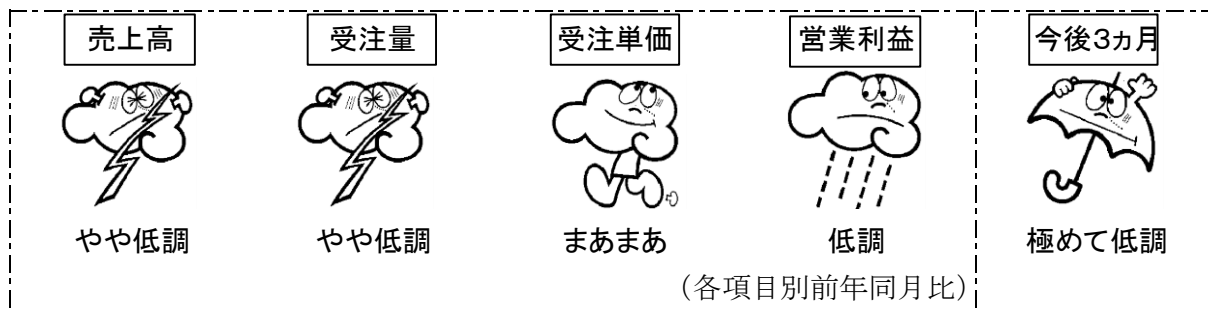
土木工事

・当社の取り扱い商品や工業受注量の動きが鈍い。需要の伸びが悪く夏から秋の8、9、10月の売上が目標額に追い付かない。

管工事

・岸田政権の年度予算の弊害の指摘が当面の公共工事にどう影響するか見極めたい。

2. 製造業



【項目別DIの推移】

	R2年11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	▲ 38.1	▲ 43.5	▲ 68.4	▲ 36.3	▲ 27.3	▲ 8.7	16.7	25.0	35.0	22.7	4.6	10.0	▲ 5.2
受注量	▲ 33.4	▲ 56.6	▲ 57.9	▲ 31.8	▲ 13.7	▲ 8.7	8.3	25.0	25.0	9.1	4.6	10.0	▲ 5.2
受注単価	▲ 19.0	▲ 17.4	▲ 21.1	▲ 18.2	▲ 18.2	0.0	0.0	5.0	0.0	▲ 9.1	▲ 9.1	5.0	5.3
営業利益	▲ 57.1	▲ 56.5	▲ 73.6	▲ 31.8	▲ 31.9	▲ 17.4	4.2	▲ 5.0	5.0	4.5	▲ 4.5	▲ 20.0	▲ 15.7
見通し	▲ 14.2	▲ 17.4	15.8	18.2	4.5	0.0	0.0	▲ 5.0	▲ 25.0	▲ 27.3	▲ 9.1	▲ 20.0	▲ 36.8

<経営者の目・見方・e t c>

精密機械	・電子部品関係の入荷状況が依然として改善しない。材料費、人件費等製造コストの上昇も厳しい。
精密機器組立	・材料が入ってこないため仕事にならないのが現状である。また、消耗品の単価が上がり四苦八苦である。
小型情報機器組立	・原油の高騰やLPガスの高騰が経費の主要をなすので採算が悪くなる。売り上げ単価への上乗せは難しい。
金属塗装	・ガソリンだけでなく、原油価格高騰によるインキや溶剤等印刷に係るほぼすべてのものが値上がりしている。
印刷	・10月から11月は行政の予算見積りの時期であるが、行政のDX推進を受けてのことなのか、担当課からの見積り依頼が紙削減、印刷物削減の内容に終始していた。業界全体の大幅な縮小傾向に歯止めがかからないだけでなく、業界自らも、業界の受注価格維持に努める教育を営業にしていなかったため、歯止めをかける意識すら存在していないように思える。印刷業界のデジタル化も一つのサービスとして、付加価値を見定めることが、全く欠落している。IMD世界競争ランキングで日本が34位となり、もはや先進国ではないこと、東南アジアのタイやマレーシアにまで先を越されているということ、こうした事実を踏まえて、すべての業界がビジネスを再構築することを求められている。
紙器	・先の見えてこない状況が続いている。
食品・飲料	・輸入原材料の入庫に遅れがあり、生産に支障が出ている。

3. 卸売業



【項目別DIの推移】

	R2年11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	▲ 61.5	▲ 38.5	▲ 58.3	▲ 41.7	23.1	33.4	10.0	7.7	▲ 10.0	▲ 25.0	0.0	7.7	9.1
販売客数	▲ 30.8	▲ 30.8	▲ 33.3	▲ 33.3	7.7	0.0	0.0	▲ 15.4	▲ 10.0	▲ 16.6	▲ 25.0	7.7	9.1
販売客単価	▲ 15.4	▲ 7.7	▲ 33.3	▲ 41.7	15.4	8.4	30.0	15.4	10.0	▲ 8.3	0.0	23.1	36.4
営業利益	▲ 46.1	▲ 23.1	▲ 58.3	▲ 33.4	7.7	16.7	0.0	▲ 7.7	▲ 20.0	▲ 16.7	0.0	7.7	▲ 9.1
見通し	▲ 15.4	▲ 23.1	8.4	25.0	7.7	▲ 16.7	▲ 10.0	▲ 7.7	▲ 30.0	▲ 16.7	16.7	7.7	▲ 9.1

<経営者の目・見方・etc>

青果

- ・大根や白菜などの価格が低迷しているが、県内での新型コロナウイルス感染者数が減り、業務需要は伸びた。また春先の凍霜害でりんご(ふじ)の入荷減がギフト商戦に影響した。オミクロン株も出てきており今後に対しての不安感が募る一方だ。

青果卸小売業

- ・年末とは思えないような動きの鈍さがある。年末や正月といった風習が薄れてきており、ただの連休という認識が強くなってきている気がする。

土産品

- ・土産品の卸、小売共に販売が好調になり、厳しい状況が改善されつつある。来春に向けて新しい企画開発も進んでおり新型コロナウイルスが感染拡大することのない様に祈るばかりだ。

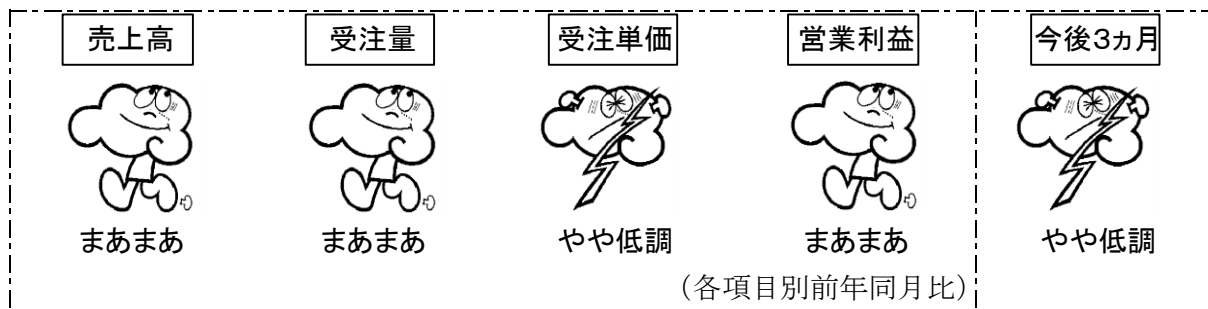
機械工具

- ・仕入の価格高騰や納期の長期化が止まらない。在庫量を増やす等の対応もしているが負担が増している。
- ・普通に間に合う機械部品の品不足により見積をするときには都度確認する作業が増えている。部品の値上がりは何度もきている。

金属製品

- ・値上げ基調は依然続いているが、一時のナイモノ高は収まってきている。しかし車関連が回復してきた時点での生産増に不透明感があり懸念される。

4. 小売業



【項目別DIの推移】

	R2年11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	▲17.4	▲7.4	▲38.5	▲8.4	▲11.1	3.6	▲8.3	▲16.7	▲13.6	▲48.2	▲45.9	20.9	13.0
販売客数	▲26.1	▲29.7	▲53.9	▲20.8	▲18.5	▲10.8	▲4.1	▲20.8	▲13.7	▲44.5	▲50.0	8.3	13.1
販売客単価	▲21.7	▲3.7	▲7.7	▲8.3	▲14.8	▲10.7	▲8.4	▲29.2	▲13.7	▲29.6	▲20.9	4.2	▲13.1
営業利益	▲17.4	▲18.5	▲46.2	▲25.0	▲22.2	0.0	▲12.5	▲25.0	▲27.3	▲37.0	▲50.0	4.2	4.3
見通し	▲8.7	▲18.5	▲3.8	0.0	7.4	▲14.3	▲20.8	▲8.3	▲13.7	▲14.8	0.0	12.5	▲8.7

<経営者の目・見方・etc>

陶磁器

・結果的にはまつもと市民祭を開催できるくらいに新型コロナウイルス感染者はいなくなり、マスク着用とアルコール消毒を除けばコロナ禍以前にかなり近づいた。外食産業からの注文もそれなりに増加し、街中の人出も回復しつつある。オミクロン株が心配だが、杞憂となる事を願っている。

印章

・法人需要がかなり減ってきている。業務のペーパーレス化は当業界にはかなり打撃である。

印章・刃物研ぎ

・やっと客足が戻りつつあった時期にオミクロン株が発生し、先が不透明になってしまった。

ガラスサッシ

・建築資材（ガラス、サッシ、樹脂、アルミ材等）が軒並み10～15%上がり、またメーカー運搬費も計上されるようになり、ガソリンの大幅な値上げと共に財政を圧迫してきている。値上がり分を見積等に載せられずに苦しい経営を強いられている。

住宅機器

・色々な建物が値上がりしている。

洋菓子店

・洋菓子業界大手の店舗が長時間労働にてニュースになった。繁忙期とはいえ、これからの時代見直さなければならぬところが多くある。当社も従業員と定期的にミーティングを行い、より一層働き方改革の推進に尽力している。

和菓子

・観光客の方が増えて、客単価が上がった。

生鮮食品

・新型コロナウイルス感染症も収まってきてはいるが、お客様が慎重にしているからか、動きもあまりなく、去年と比べて変化があまりなかった。

薬局

・飲食店では客数が急増しているという話を聞くが、こちらは益々静かになっている。景気が悪くなっているとさえ感じるほどだ。

5. 飲食業



【項目別DIの推移】

	R2年11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	▲ 68.7	▲ 87.5	▲ 94.4	▲ 81.2	▲ 57.9	▲ 18.7	▲ 31.3	▲ 10.0	▲ 25.0	▲ 82.4	▲ 61.1	▲ 17.6	5.3
販売客数	▲ 68.7	▲ 93.8	▲ 94.4	▲ 81.2	▲ 52.6	▲ 18.7	▲ 37.5	▲ 5.0	▲ 25.0	▲ 76.5	▲ 66.7	▲ 23.5	10.5
販売客単価	▲ 56.3	▲ 75.0	▲ 66.7	▲ 81.2	▲ 31.6	▲ 37.5	▲ 56.2	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 52.9	▲ 44.4	▲ 29.4	▲ 10.5
営業利益	▲ 81.3	▲ 87.5	▲ 94.4	▲ 81.2	▲ 52.6	▲ 25.0	▲ 43.7	▲ 15.0	▲ 35.0	▲ 82.4	▲ 66.7	▲ 29.4	▲ 21.0
見通し	▲ 37.5	▲ 37.5	▲ 22.2	▲ 18.8	▲ 15.8	▲ 6.3	0.0	5.0	▲ 15.0	▲ 29.4	0.0	5.9	▲ 5.2

<経営者の目・見方・etc>

料理

- ・少数での宴会も増えてきているが、コロナ禍以前の活気を取り戻すにはまだ時間がかかりそうだ。
- ・週末の観光客の出足はコロナ禍以前を思い起こさせるものがあった。ただ、夜の客足や宴会は未だ戻らない。忘年会も大手の会社などでは禁止令が出ているようである。ぜひ市役所の方々や公務員の方々には盛大に動いて欲しい。

郷土料理

- ・11月の来店客数は、前半に県外の方が多く見られて、中頃は土日多め、平日は少なめで地元客も落ち着いた感じになった。後半はオミクロン株発生の報道などで少し来店客数が減った印象がある。そのせいか宴会の申込予約も減った。

中華料理

- ・現金、キャッシュレス、プレミアム商品券等々の使用や仕入価格高騰などで現金での引き落としのやりくりが非常に困難である。

創作料理

- ・新型コロナウイルス感染者数が松本地域でも0が続いた。11月、12月の予約が入り時期的にも忘年会と思われる予約だろう。我慢していた分1件当たりの人数も多く助かったと思いきや、12月に入ってからキャンセルが相次いでいる。韓国や北海道での感染拡大やオミクロン株の発生が原因と思われる。また、0が続くことにより自分自身が感染源になるかもしれないという警戒感もある。

そば

- ・昨年11月に比べて全国的な規制の解除や紅葉など回復の兆しが見えてきたが、今後冬場をどのように凌げるかが課題だ。ガソリンや灯油などの価格高騰で年末年始の食材についてかなりの値上げが予想されておりまだまだ厳しい日々の葛藤が続きそうだ。

寿司

- ・今月は10月と比較すると、毎日平均してお客様が来てくれた。徐々に良くなりつつあると思う反面、極端にお客様が少ない日があっただけで景気全体は今まで通りあまり良くない。
- ・新型コロナウイルス感染症もかなり落ち着いてきており嬉しい限りである。ただ、まだマスクを外せるような状況ではない。コロナ禍以前よりランチタイムのお客様は増えた気がするが、夜のお客様はもう少しといったところである。このままの状況だと年末年始は何とかいけそうな気がしている。

食堂

- ・長野県内の新型コロナウイルス感染者数が0である日が続く人出もあった。週末の予約が増え、昼も中高年層のお客様が増え少し戻った気がするが、まだ油断できないので徹底して消毒や換気等感染症対策に気をつけていく。

居酒屋

- ・新型コロナウイルス感染症が落ち着いてきており、イオンモール周辺も土日は車の渋滞が見られるようになって、来客数も以前の状態に戻りつつある。
- ・Go To Eat キャンペーン事業の駆け込み利用のお客様が随分多く感じた。来店されるお客様も増えつつあるがまだまだテイクアウトされるお客様も一定数いる。
- ・新店舗がオープンし、街が明るくなってきた。人通りも以前より多くなってきている反面新型コロナウイルス感染リスクが高まるため何とも言えない状況である。

6. サービス業



【項目別DIの推移】

	R2年11月	12月	R3年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
売上高	▲ 20.5	▲ 39.6	▲ 51.3	▲ 43.2	▲ 2.4	9.7	13.6	0.0	0.0	▲ 15.0	▲ 17.5	▲ 20.5	▲ 7.1
販売客数	▲ 18.1	▲ 34.9	▲ 56.1	▲ 43.2	▲ 11.9	9.8	2.3	0.0	▲ 6.8	▲ 22.5	▲ 17.5	▲ 27.3	▲ 14.3
販売客単価	▲ 6.8	▲ 14.0	▲ 24.4	▲ 27.2	▲ 2.4	7.3	▲ 9.1	▲ 4.8	▲ 9.1	▲ 7.5	▲ 10.0	▲ 22.8	▲ 4.8
営業利益	▲ 15.9	▲ 41.8	▲ 53.7	▲ 40.9	▲ 14.3	2.4	▲ 4.5	▲ 9.5	▲ 15.9	▲ 22.5	▲ 20.0	▲ 20.4	▲ 7.1
見通し	▲ 16.0	▲ 23.3	▲ 12.2	4.5	▲ 2.3	▲ 17.1	▲ 2.3	14.2	▲ 18.2	▲ 7.5	10.0	▲ 13.7	▲ 7.2

<経営者の目・見方・etc>

旅館

- ・Go To トラベルキャンペーン事業のあった昨年ほどの勢いはないが少しずつ客足も増えてきているものの、オミクロン株が今後どうなっていくのか心配である。

温泉旅館

- ・Go To トラベルキャンペーン事業真っ只中の昨年11月に比べるとそこまで多くの売上高でないにしても、十分業績は良かった。懸念材料は、燃料費を筆頭に多くの物の値段が上がり始めた。これから冬に向かって増々の価格上昇が危惧される。オフシーズンに入るので販売価格に添加するにも非常に厳しいと思われる。新型コロナウイルス感染症の新たな変異株も心配である。

観光旅館

- ・新型コロナウイルス感染症も一段落した感じがあり、ビジネスも動きがある。
- ・10月に引き続き、比較的好天に恵まれた上、新型コロナウイルス感染者の激減にも助けられ、Go To トラベルキャンペーン事業がなくても昨年と同程度の入込となった。4月まで冬季休業のため、Go To トラベルキャンペーン事業が始まっても恩恵は受けられないが、新たに発生したオミクロン株が春までに収まることを祈るばかりである。このままでは、来シーズンもインバウンドは諦めざるを得ない。

ホテル

- ・宿泊はだいぶ戻ってきたが、会議のみで宴会の予約が伴わない。忘年会や新年会の予約も低調である。
- ・まつもと市民祭や長野県縦断駅伝が中止となってしまった。

ホームクリーニング・リネンサプライ業
写真

- ・電子保存義務化の動向に注目したい。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響は業界全体を見ると影響がなかったように見えるが、形態も変わってきてコロナ禍も落ち着いてきたためイベントや行事など様々なことが駆け足でやってきた感じであった。今後はまだ何とも言えないが方法を変えつつ年間行事も行っていきそうではある。

機械設計

- ・間に合わない部品が多くなってきている。届くまでに時間がかかるものは半年から1年もかかってしまう。この状態が来年も続きそうである。

<p>測量・設計 測量・建設コンサルタント業</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事での車の移動、部屋の暖房等ですでに原油価高騰の影響は出ている。 ・災害業務が落ち着いてきたので、仕事が欲しいところだが官庁の仕事が出てこない。特に中信がない。かつてないほど売上がなかったため、これから出てくることに期待する。
<p>ソフトウェア</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現行のシステムの老朽化と、それを設計したエンジニアの引退により、システムの再構築を意図されるお客様とその動きが多くなったように感じる。ベストプラクティスはITエンジニアを自社雇用し自製を進めることだが、これを理解する経営者が少なく、新規プロジェクトは難航している。
<p>タクシー</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年も11月15日に上高地の閉山祭が行われてシーズンを締めくくった。シーズン前半はお客様が少なかったが、後半は増えて忙しい日もあった。
<p>自動車整備・板金塗装</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ガソリン価格の高騰により車の動きが鈍くなると思われる。仕事の上でも、タイヤ、事故車の入庫が少なくなりそうである。
<p>ペットサービス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・11月は昨年比べて特にホテルの利用が倍増した。新型コロナウイルス感染症が収束しつつある中で県内外の移動が増えたのが大きな要因と考えられる。12月は繁忙期でもあるので今以上に社員の体調管理と感染予防を徹底していかなければならない。
<p>介護サービス</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・医療、介護、労働者の給与を引き上げると政府は方針を決めたが、本当に実現されるのだろうか。マスコミによると額が少ないらしくあまり期待できない。財源である介護報酬は今後どのような扱いでやっていくのだろうか。